

風の階段 踏みしめて ～ 自己実現へ向かう道 ～

(登校日版)

第37号 平成25年2月22日(金)発行



「ごちないぬくもり」と「幸せなさびしさ」を抱いて

＝ダンデライオン ～遅咲きのたんぽぽ～ (松任谷由実) から＝

松任谷由実のダンデライオン(ライオンの歯に似た「タンポポ」という意味ですが)の歌詞に、
標題のような言葉が出てきます。ここでは抜粋として、歌詞の一部を取り上げ、全体の楽曲の意
とは少々異なるろうとも、自身の記憶をたどり、感傷に浸りたいと思います。(起I)

ふるさとの両親が よこす手紙のような
「ごちないぬくもり」ほど泣きたくなる

きみはダンデライオン
本当の孤独を 今まで知らないの
とても「幸せなさびしさ」を抱いて… (起II)



私が大学生だった頃、実家から届いた包みの中には、食べ物やら生活必需品やらがぎっしりと
つまっていました。同封の手紙には、末っ子を家から送り出した親の不安と期待の情が込められ
ていたのでしょう。身近な存在だからこそ、少しくすぐったいような、あふれる愛情にどまどう
ような、複雑な気持ちになったものです。(承I)

「ごちないぬくもり」とは、肉親を思うがゆえの、不器用さを伴うあたたかさでした。
肉親に守られている感情は、幼少期から引き続くものとして、物理的な距離を度外視して、
私自身の心の安定をもたらすものでありました。決してさびしさなどではなく、幸せに浸るべき
時空間として置かれたものだったと記憶しています。「幸せなさびしさ」とでもいうものでした。
(承II)

さて、ふるさどに戻り、物理的にも安定を得た今、あの大学生であった頃のある種自由な時空
を想うとき、なんともいえない懐かしさにとらわれます。(転I)

人というのは、ふと時間に遊び、観念に遊ぶことができます。人間特有の認識力なのでしょう。
芥川賞受賞作家 朝吹真理子の「きことわ」では、時間を融解し過去や未来に自由に飛びまわる
意識世界を描きます。私は、過去や未来にいかようにも雄飛できる意識世界を今、かみしめられ
ることに大きな喜びと感謝の念を抱いています。(転II)

みなさんは、これから家から離れ、一抹のさびしさを味わうことあるかと思えます。ただ、
それが想い支えてくれている人がいることからくる、いわば「幸せなさびしさ」とでもいうべき
感傷であることに思いを致し、安心して一步一步、歩を進めてほしく思っています。(結)

登校日は残りわずかとなりました…

- | | |
|----------|----------------------------------|
| 2月22日(金) | 大掃除等あり。
お世話になった空間を美しくしておきたい… |
| 28日(木) | 卒業式予行の打ち合わせ、卒業に係る諸準備等 |
| 3月1日(金) | 卒業式予行・同窓会入会式 |
| 2日(土) | 卒業式・閉校式
(落合高校の歴史はみなさんとともにあり…) |



(歌詞)「ダンデライオン」

夕焼けに小さくなる くせのある歩き方
ずっと手をふり 続けていたいひと
風に乗り飛んで来た はかない種のような
愛はやがて来る 冬を越えてゆく
きみはダンデライオン
傷ついた日々は 彼に出逢うための
そうよ 運命が用意してくれた
大切なレッスン
今 素敵なレディになる
つみとってささげたら ひとに笑われそうな
私にできる全てをうけとって
ふるさとの両親が よこす手紙のような
ごちないぬくもりほど泣きたくなる
きみはダンデライオン
本当の孤独を 今まで知らないの
とても幸せな淋しさを抱いて
これから歩けない
私はもう あなたなしで
とても幸せな 淋しさを抱いて
これから歩けない
私はもう あなたなしで